



青森県立大間高等学校 生徒指導部通信

2026 年（令和 8 年）

7 月 15 日（水）

文責：田中大基

2026 vol.9

▼Contents

- 1 ボランティア活動報告②
- 2 一球入魂

1 ボランティア活動報告



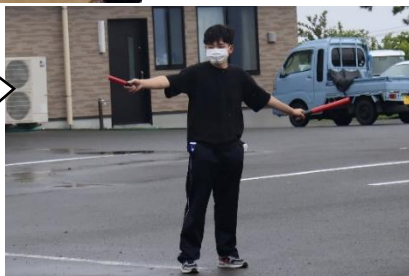
7 月 11 日（土）特別養護老人ホーム **しおさい岬夏祭り**（大間町）、**ゆかい村海鮮どんぶりまつり**（風間浦村）に、ボランティア活動部及び有志生徒が、運営ボランティアとして参加してきました。地域の行事を円滑に運営するため大間高生が積極的に関わっています。

しおさい岬夏祭り



夏に最適
トロピカル
ジュース

来場者の
安全のため
交通誘導



元気に
受け付け対応



ゆかい村海鮮どんぶりまつり



400 食近い
海鮮どんぶりを
提供

会場の
衛生管理を
徹底



ウニと
アワビの
どんぶり



2 一球入魂



Wikipedia より

「一球入魂」あまりにも有名なこの言葉の発祥を知っていますか？これは、戦前戦中に早稲田大学野球部顧問を務め「学生野球の父」と謳われた飛田穂洲（とびたすいしゅう）の言葉です。

飛田の出身地である茨城県の春の高校野球県大会優勝校には、「一球入魂 快打洗心」という飛田の揮毫の盾が送られていています。飛田が言う「一球入魂 快打洗心」とはどのような精神なのでしょうか？

「学生野球とはなにか」

12

飛田によれば、学生野球とは「清浄にして無垢（むく）なる魂」であるとし、精神を貴ぶ「野球道」であるとなりました。

「野球は単なる遊びごとであってはならない。野球から一つの人生をつかむ。そこに一球洗心とか一打入魂とかいう言葉が生まれる…。野球を単なる勝負事のように考える前に、心を洗う修練こそ高校野球の本質であろう。」（「魂の野球を想う」飛田）

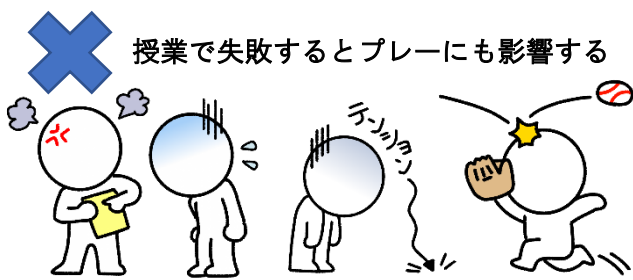
練習常善

「練習常善とは**不断の練習を続ける**という意味であり、**常にたゆまぬ努力をおしむ**なということである」「…**どこにでも練習場がある**ということである。極端にいうと、座っていても、立っていても、歩いていても練習のできる方法を案出することである。」（「学生野球にシーズン・オフはない」飛田）

プレーの上達方法は練習しかあり得ません。しかし**学生の本分は学業**であり**一日のほとんどは授業**です。練習のために授業を休むなどできません。授業成績が悪いと再試験や課題を課せられ、先生や親御さんにも怒られて精神的なストレスが生じます。

練習の時間を確保し集中するためには、授業をしっかり受け成績を上げること。そのために必要なのは**時間や生活管理**です。**正しい時間に寝起きし、勉強すべき時間に取り組み**ば成績は上がります。勉強が苦手であったとしても**生活態度が優れて**いれば先生や友人は真摯に対応してくれるでしょう。

一球を捕る・打つためには**邪（よこしま）な気持ちに負けない心**の活動が必要です。**この一球を打つために、心を洗い人生をかける。魂を磨く。心が洗われ魂が入った一球は必ずや快打**となるでしょう。故に、「一球入魂 快打洗心」



¹ 飛田穂洲 | 水戸市立大場小学校 公式ホームページ (magokoro.ed.jp)

² 高橋豪仁「飛田穂洲の野球信念と物語の生成」『奈良教育大学紀要』第51巻 第1号（人文・社会）平成14年を参考に執筆

